愛知県立芸術大学ＦＤ活動報告書

平成３１（令和元）年度

愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸術教育・学生支援センター

目　　次

第１章　FD 活動報告書

１－１　美術学部／美術研究科 FD 活動報告書 …… 2

日本画　／　日本画
油画　／　油画・版画
彫刻　／　彫刻
芸術学　／　芸術学
デザイン　／　デザイン
陶磁　／　陶磁

１－２　音楽学部／音楽研究科 FD 活動報告書 …… 7

作曲（作曲）　／　作曲
作曲（音楽学）　／　音楽学
声楽　／　声楽
器楽（ピアノ）　／　鍵盤楽器
器楽（弦楽器）　／　弦楽器
器楽（管打楽器）　／　管楽器、打楽器

第２章　授業評価アンケート

概要 …… 12
実施授業一覧 …… 17

第１章　専攻ＦＤ活動報告書

美 術 学 部・美 術 研 究 科

美術					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
日本画	1	専攻会議の実地	必要に応じて適宜、実地されたFD関連課題は随時行っている。	授業改善や学生の抱える課題などについて新たな知見や専門知識を共有し、指導に活かす。	授業改善のための検討を随時行い、カリキュラム見直しも検討した。学生の状況についても教員館で共有した。
	2	授業評価のアンケートの実地	日本画実技Ⅰ～Ⅳに対しての授業アンケートを実施	授業の改善、学生の情報共有	アンケート対象授業は教員全員が関わる授業であり、学生や授業の課題共有、改善の検討、担任の負担軽減に生かした。学生の意見を参考にきめ細やかな対応ができるようになった。
油画	1	専攻会議の実施とカリキュラム改善	・通常専攻会議は毎週水曜日13:30-15:00に実施。 ・出席者：油画専攻常勤教員12名、教育研究指導員（助手長1名）	・授業内容に関する情報共有、意見交換、改善。 ・より良い教育環境や理念、アドミッションポリシー作成への基盤づくり。	・授業内容に関しては、前年度の授業評価アンケート結果を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻全教員で 協議し、改善をおこなっている。 ・長寿命計画（大規模改修）をまとめ、さらに学生の１名あたりの面積改善などは専攻だけでは解決できない問題であり、引き続き全学施設整備委員会などと連携を取りつつ協議することとした。 ・受験生の人数と質を確保するために、学部入試の出題方法や内容について、検討と協議を重ねながら検証していくことになった。 ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に 協議を重ねている。 ・退任教員が2年連続で続くため、新規採用人事についての考え方を油画専攻全教員で協議している。 ・学内開催となった卒展について、展示方法だけでなく、運営方法、学生負担、広報、展示設備など多角的に検討している ・オープンキャンバスを、より魅力的に情報発信できるように、個別面談や作品展示などきめ細やかな対応を検討した。
	2	授業評価アンケートの実施	■油画実技Ⅰ～Ⅳの4項目について実施した。（前期、後期末） ■受講した学生についての質問内容 1、出席率。 2、意欲的に取り組めたか。 3、受講後、興味関心が高まったか。 ■授業について質問内容 4、授業選択にシラバスは役立ったか。 5、授業時間は十分だったか。 6、教員の話し方、話すスピードは適切だったか。 7、教員とコミュニケーションはとれたか。 8、現在の力量に合った、適切な指導を受けられたか。 9、教室・設備については適切だったか。 10、専門能力向上に役立ったか。 11、授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いましたか。 ＊学生が特に良かったと判断した点、要望などを自由記述。	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善。 ・授業内容の向上。 ・学生の専門能力の向上と成果。 ・教員の対応能力の向上。 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善。	■アンケート結果 ・アンケート1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11は、各学年とも 高評価であった。 ・アンケート9のみ結果が悪く、アトリエの面積や設備への評価や意見では、アトリエの狭さや空調の不備などが 多数列記されている。 ■自由記述より学生が特によかったと判断している点 ・教員と個別対話ができることで、作品制作についてしっかりと話すことができる。 ・２年次以降では授業を自分の考えで選択できること。 ・特別演習では、様々な分野の作家やギャラリストから話を聞くことができる。 ■改善と要望点 ・「アトリエが狭い」「暑い（寒い）」「WIFIがない」など、改善を求める回答が多数あり、アトリエ環境の早期改善が必要である。
	3	１、２年次の各講座別、授業評価アンケートの実施	■1年次　アンケートを実施した講座 1-1「課題制作・風景考」 1-2「材料研究・自画像」 1-3「壁画実習」 1-4「自由制作課題」 1-5「課題制作・人物」 1-6「自由制作」 1-7「空間・物質の試考」 1-8「版画研究」 1-9「研究制作（進級課題）」 ■2年次　アンケートを実施した講座 2-1 講座II-1, II-2, II-3, II-4, II-5, II-6, II-7, II-8, II-9, II-10, II-11, II-12 2-2「自由制作」 2-3「写真講座」 2-4「研究制作（進級課題）」 ・アンケートの設問は、各講座内容に合うものにするため各担当教員が作成（授業後配布し回収） ・責任ある回答を得るため、学生は氏名記述を基本としている。（一部除く）	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善。 ・授業内容の向上。 ・学生の専門能力の向上と成果。 ・教員の対応能力の向上。 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善。 ・3年次からの個別指導に向けた基礎資料づくり。	・各アンケートの結果は有意義なものであり、各教員にとって授業内容改善の参考となっている。 ・油画実技Ⅰ～Ⅳすべてにおいて、事前のガイダンスなどで成績評価や出席基準などを明確に示す必要がある。 ・油画実技Ⅰ～Ⅳすべてにおいて、施設設備の改善やアトリエの狭さなどはて非常に大きな課題となっている。 ・1年次と2年次は基礎課程ということで、授業が毎月設定されているが、学生の自主性に任せる自主制作期間を増やすこととも重要となっている。 ・2年次と3年次における全教員による講評会の回数や時期など検討が必要となった。
	4	学生との意見交換会	・教員と学生との信頼関係を維持するため、毎月1回、12:05-12:30に学部各学年の代表2名ずつ計8名に集まってもらい、教員との意見交換会を実施している。 ・意見交換会の内容は授業関連にとどめず、施設要望、学校生活の様子など幅広く意見交換をしている。	・ハラスメント防止。 ・施設の不備調査と改善。 ・学生間コミュニケーション調査。	・これまで同様、アトリエの狭さや空調へ不満と設備改善要求が多かった。 ・アトリエ使用時間の延長要望や夏場の空調利用要望があった。 ・各学年代表者が同じ場所に集うことで、同学年だけでなく上下間の交流も生じた。 ・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は、学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などに要望や改善を年間を通じて報告した。

美術					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
油画	5	作品写真アルバムの作成	・学生が授業で制作した作品は、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理している。 ・紙媒体だけでなく、iPadを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにしている。	・高等美術教育としての資料のアーカイブ化。 ・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料。 ・講座内容改善のための資料。	・紙媒体からデジタル中心に移行したことにより、学生の作品を面談や講評時に確認できるので非常に有用である。 ・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウィルス対策などについて、対策が必要となっている。
	6	写真講座、文章講座の実施	・写真講座は2年次に実施し、作品写真アルバムを作成するために基本的な絵画作品の撮影技術などを教える。 ・文章講座は3年次に実施し、自作について語れる文章能力を身につけるために実施している。	・国際舞台でも通用するプレゼンテーション用の作品ファイルの作成。 ・自作や美術作品等を語るための文章能力とコミュニケーション能力の向上。	・写真講座と文章講座を通じて、ポートフォリオやステートメントを作成する学生が増加し、内容についても質が向上している。 ・大学卒業後、作家活動や社会活動をする上でも、プレゼンテーション能力は非常に重要であるため、今後も講座を継続していく。
	7	学生ファイルの作成	・学生ファイルは、入学時から作成し、1年次と2年次の各講座や3年次と4年次のチュートリアル授業や卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録しておくものである。 ・在学生全員分は油画専攻教官室のキャビネットに保管しており、常に教員や学生などが閲覧できる。作品写真アルバムと合わせて利用している。 ・卒業後の保管期間は5年間としている。	・個々の作品制作の変遷を、年を追って確認できる。 ・学生は問題意識を持って授業に臨め、次の作品制作に役立てる。	・学生ファイルは学生本人だけでなく、常勤教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。
	8	アトリエ・教室等の改善	・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉学方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講評会や討論会などの指導にも影響を与える。 しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「自然環境の整備不足による学生生活の安全性が守られていない」「WIFIなどのデジタル関連の未整備」「水場環境の不備」という大きな問題点がある。この問題についての解決策を随時、油画専攻で協議し、各種委員会などで報告している。	・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対しての改善と拡充。	・全学年を通じて、アトリエの狭さと設備に対する不満が、アンケート結果や学生との意見交換会などから非常に大きいことが、あらためてわかった。 ・現状施設の重点的改善点 1、制作スペースの確保 2、冷暖房環境の機能強化 3、利用時間の見直し 4、電気容量不足の改善 5、学内WIFI環境の構築 6、水場環境の改善 7、自然環境の整備と安全性確保 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えていく必要がある。
彫刻	1	授業評価アンケートの実施	彫刻実技Ⅰ～Ⅳの各授業に対して授業評価アンケートを実施した。	授業に対する学生からの率直な意見を収集し、今後の授業運営に役立てる。	昨年度までは前期と後期に一回ずづアンケートを実施していたが、今年度より各教員が担当する授業ごとにアンケートを実施することとした。これによりアンケートの回答の対象がより明確になった。また今年度より、授業は専攻が実施するものであるという共通認識に基づき、アンケート結果を可能な範囲で教員間で共有することとした。このことにより、専攻全体でのカリキュラムの課題が見えるようになり、運営の改善や今後の検討に役立てることができるようになった。また、教員間で問題を共有することで、多角的な視点により問題の解決を図っていくこともできるようになった。 後期の授業アンケートでは、二つの実技授業の時期が重なることへの改善の要望があった。これについては来年度以降に対応を検討する。
	2	専攻会議の実施	原則隔週水曜日の13時より、2時間程度実施した。 ①各委員会からの議題の検討と報告 ②授業運営や専攻運営の議題の検討と報告 ③学生の動向の確認	大学運営に関して教員が情報を共有し、共通の認識に基づいて物事を決める。学生の状況を把握し、必要な対応を検討する。	専攻会議の運営は今年度も引き続き円滑に進めることができた。何か検討が必要な事案がある場合には、教員間で協議し民主的な方法により決めていった。欠席の多い学生が若干名いたが、教員間で情報を共有し、話し合いながら対応を決めていった。
	3	将来計画会議の実施	専攻会議のない水曜日の13時より、2時間程度実施した。 中長期的な視点から今後の彫刻専攻のあり方や方向性について話し合った。	来年度以降のカリキュラムの改変およびそれにともなう非常勤講師の委嘱と配分コマ数について検討する。また、今後の気温上昇に備えて、野外の実技授業の実施時期を検討する。	過去の授業アンケートで、石彫や金属実習などの6月から7月の時期に行っていた授業の実施時期を見直してほしいとの要望が学生から挙がっていた。今年度はその見直しを行い来年度から実施できるようにした。また、4年後の彫刻専攻の校舎移転も見据え、中長期的な視野に基づいた彫刻専攻カリキュラムのあり方について検討を行った。
	4	学生の研究報告書の活用	各授業の終わりに学生に研究報告書を提出させ、これを専攻事務室でファイリングし、閲覧できるようにした。研究報告書には学生の研究のテーマやタイトルの他、研究の概要や成果を記述させ、作品の写真も添付させた。	学生が作成した各授業毎の研究報告書を専攻事務室でファイリングし閲覧することで、4年間を通じた学生の取り組みや学習状況を把握する。	研究報告書の作成を通じて、学生は制作過程や制作意図について言葉で伝える力を身につける。また授業中や講評会ではうまく伝えられなかったことを後から教員に文章で伝えるためのツールにもなっている。教員は研究報告書を通して学生の学習状況における理解度を知ることができた。

美術					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
彫刻	5	学生カルテの活用	各授業の終わりに学生の意欲や学習状況、その他特記事項について教員がカルテに記入し、これを専攻事務室でファイリングし、閲覧できるようにした。	各授業の担当教員が記入したカルテを専攻事務室でファイリングし閲覧することで、学生の意欲や学習状況を把握する。	学生カルテは、欠席が多くなったり何か気にかけるべきことがあったりする学生について、過去に遡って学生の学習状況を確認するのに役立てている。教員間で学生の状況を共有するのにも役立てることができた。
	6	ゲスト講師による講義の実施	年間3回、教員が推薦する外部講師による講義（彫刻論）を実施した。	専任教員とは異なる専門領域の講師等を招聘することで、専門的知識の補完を図り、教育研究に役立てる。	特に女性の講師を選ぶことを予め決めていたわけではないが、学生の8割から9割が女子であることも念頭に置き、今年は初めて全員女性のゲスト講師を招聘することとなった。一人目は30代の木彫彫刻家、二人目は40代の木彫彫刻家、三人目は60代の金属彫刻家である。学生が彫刻家として歩む道の手本となるような作家を招聘した。中には講義だけでなく制作の実演を行う講師もおり、学生と教員双方にとって貴重な機会となった。また今後の授業運営の検討にも役立つ多くのことを知ることができた。
	7	ゲスト講師による講評会の実施	院生展の会期中に一人、卒業修了制作展の会期中に、学外から講師を二人（一人は作家、もう一人は学芸員）を招聘し講評会を行った。	専任教員は4年間を通じて学生の学習状況を見てきているが、そうした教員による講評とは別に、成果物である作品のみの客観的評価を得る。	特に女性の講師を選ぶ意図があったわけではないが、今年は初めて全員女性のゲスト講師による講評会を実施することとなった。ゲスト講師の招聘は、客観的な講評を得る機会であるのと同時に、教育の在り方についての意見交換を行う貴重な機会でもある。卒展の講評には、今年は漆工芸作家を招聘し、工芸作家の視点での講評会を行った。また彫刻と工芸の違いについての意見交換や工芸領域での漆造形技法についての紹介もあった。もう一人の講師は国際的に活動するインディペンデント・キュレーターで、客観的で的確な講評から、学生も教員も大いに学ぶことができた。またキュレーターという専門家による海外での活動についても少し知ることができた。
	8	客員教授による特別講義の実施	金井直客員教授による特別講義を前期2回、後期2回、第3木曜日の2限に行った。	近現代の彫刻史を学びながら、その主要なテーマを取り上げ、現代において彫刻制作を行う者が直面する諸課題について、教員・学生共に考える。	「アルテポーヴェラ　なにが貧しいのか」、「西洋彫刻における視点の系譜」など、金井客員教授による興味深い視点での講義が行われた。彫刻史を学びながら、彫刻領域の諸課題について教員と学生が共に考える機会としては、大変有意義なものだった。出席率は大変高かった。
芸術学	1	授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを以下の方法で実施した。 前期／後期の講義最終回に、学生へアンケートを配布・回収し、結果を取りまとめる。結果を元に報告書を作成し、次年度報告書として学内ホームページにて開示する。	客観的に評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	授業評価アンケート報告を参照ください。
	2	専攻会議の実施	原則として毎週水曜2時限目（芸術学総合研究）終了後に1時間程度開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況等を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	適切に行なった。教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業で対応した。学生に支援が必要な場合は、医務室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。
	3	育休教員のバックアップ	教員の一名が出産のため前期（4-6月）育児休業を取得した。その間、非常勤の教員を配備するなど指導体制を整えた。	教育の質の維持。	同一専門領域の非常勤の教員が講義を担当した。他の教員も可能な指導を行い、さらに学内委員会の代行を務めた。これらにより学生の指導や学内運営上の空白を埋めることができた。
	4	子育て教員へのバックアップ	育児休業から復帰後の教員が担当する科目「古美術研究旅行」について、一週間の引率が難しいため芸術学専攻の教員が数日ずつ引率を引き受けた。	教育の質の維持。	一週間の引率を数日ずつ芸術学専攻の教員が分担して行き、無事に全日程を終えることができた。旅行のコーディネート・事前授業・レポート採点は当該教員が行った。
デザイン	1	専攻会議の実施	毎週水曜16時より2時間ほど専攻会議を行っている。各授業の進捗や、問題点、改善点の共有。特にメディア映像専攻設立に関連し、新デザイン専攻のカリキュラムや体制の検討を行った。	授業運営に関わる情報、課題の共有。専攻としての目指すべき方向性の 確認。学生の学習環境整備。	デザイン教育の情勢が大きく変化しており、本専攻でも大きく舵取りをする時期と判断し、2020年度から授業体制、カリキュラムを大きく変更することになった。会議での議論を活かしたかたちでシラバスも改善し作成することができた。同様に入試の改革についても常に検討を行い、優秀な学生の確保を目指す議論を継続している。
	2	授業評価アンケートの実施	デザイン実技Ⅰ～Ⅳの各授業と一部の関連科目に対して授業評価アンケートを実施した。前期・後期に分けて、授業評価アンケートを行い、ともに最終授業日に、学生へアンケートを配布・回収し、結果を取りまとめる。専攻会議で結果を共有し、改善点の洗い出しと対応の検討を行った。	授業に対する学生からの意見収集と、今後の授業運営に役立てる。	アンケート結果をもとに新しいカリキュラムでの運営について問題がないか検証し、カリキュラムポリシーとの整合性を図った。新デザイン棟においても設備、環境面での不具合もあり、それらの対策の参考にもなった。
	3	デジタル系制作環境の整備	新デザイン棟建設に伴い、大型プリンタ室、プロトタイピング室、コンピュータ室、撮影室の整備を行ったが、それに合わせて実技系ゼミの強化や、講習会の実施を積極的に行った。	制作作品のレベルアップと、学生のデザインスキルアップ。	デジタル環境での制作はデザインのすべての分野で必須のスキルとなっており、ようやくまともな環境の中で学生達に制作環境を提供できた。機器類の使用はライセンス制をとり、幅広い時間帯で自由に使用できる体制を整え、制作に活用できるようになっている。

美術					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
陶磁	1	専攻会議の実施	原則毎週木曜日の9時より、実施された。 FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図った。 1授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 2学生の受講姿勢についての確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 3関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 ４非常勤講師の授業内容と時間数の見直し	学生の受講状況を把握し、意欲の 向上、カリキュラム実施状況の確認 を行い、出来る限り教員全員が学生の状況を把握できるようにする。	カリキュラム全体の流れや達成目標について検討を行っ た。特に、基礎のカリキュラムは、専門領域に別れた後にも大きな影響があるため、内容について継続的に協議して 行くこととした。 2021年度から開始する専門領域の３コース化を確認し、各コース担当教員が準備を始めることとした。
	2	授業評価アンケートの実施	各種授業評価アンケートを行った。	客観的に授業の評価を得るため	達成目標について検討を行い、学生の理解力によって次 年度のカリキュラムに反映していくこととした。
	3	教育環境の改善	従来のカリキュラムを全面的に見直し、新しいカリキュラムを検討。202 1年度の実施予定でカリキュラム改変を計画した。新専門領域の設置と、各担当教員を決定し 、専門領域ごとに教育目標を定め授業内容を組み立てる。非常勤講師の配置確認、授業時間数を精査するなど、授業内容の最適化を図る。現行の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	陶磁専攻は設置から30年経過したが、新な時代に向け大幅な教育改変が必須である。学生の質や要望、文化・社会的状況の変容にふさわしい教育環境の整備と再構築を目指す。	来年度、新1年生におけるカリキュラムの運用を開始。新カリキュラムを運用しながら、随時状況の確認と情報交換を行い、継続的に学生によりよい教育を提供できるよう、 引き続き意見交換を行う。
	4	工房の研究環境の整備	1学生の工房環境を改善する。主に30年使用してきたロッカーを更新 する。 2窯場道具修繕 3ガス供給ルーツメータの交換 4制作時に使用 する制作板、亀板等消耗備品の更新 5ブタンガスの液化問題の継続的検証 6研究指導員のパソコンの整備	工房の安全な運用を持続するため の整備	更新や修繕については、安全な工房運用に欠かせないも ので教員、指導員の連携を密接にして積極的に取り組 む。
	5	客員教授による講評会	従来専門領域ごとに実施していた講評会を統合し、全４年生、博士前期課程2年生のために客員教授外舘和子氏を招いて実施した。卒業・修了作品に関する中間講評会を陶磁専攻講義室で、最終講評会を芸術資料館で行った。	客員教授の客観的で冷静な講評は、学生の視野を広げ、新たな考察へと導く有意義な機会となる。また、異なる専門領域の作品への講評を聞くことで、学生相互に刺激を受ける機会となる。講評会に参加する後輩学生にとっても、緊張感のある教育の場となっている。	外部者による講評は、学生、教員の教育の在り方に関する優れたFD効果をもたらす。
	6	ソウル科学技術大学（韓国）との国際交流	本学陶磁専攻と専攻間提携校（2017年より）のソウル科学技術大学（韓国）で、両学教員12名による交流展をSAKURAサテライトギャラリーで開催した。韓国からは教員４名が来日し、合同で実施したオープニングレクチャーには陶磁専攻から学生による作品発表、２０名の学生が参加した。	アジア各国の芸術大学との交流は、共通する陶磁工芸に関する歴史文化的な文脈から本学陶磁専攻にとって特に重要な意味を持つ。	日韓両大学間の交流が深まり、今後の教育的な連携が具体的に可能になった。

音 楽 学 部・音 楽 研 究 科

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
作曲	1 専攻会議の実施	構成員は常勤4名の教員。議題は提出作品審査、イベント関係（提携校UCSDとの国際交流事業や作曲作品演奏会等）、入試問題作成（楽典、ソルフェージュ等）、中期目標など。原則隔週火曜日の13時より、1時間30分程度。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 ①レッスン、およびクラス授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 ②学生の受講姿勢についての確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 ③関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 ④学生の生活上の問題、所属クラスに関する課題について検討を行う。 ⑤美術学部設置の新専攻との連携および学生の関わりについての提言をまとめる。	学生の受講状況を把握し、意欲の向上、カリキュラム実施状況等の確認を行い、出来る限り教員全員が学生の状況を把握できるようにする。	今年度は臨時部会も含めて23回実施した。現在在籍する発達障害や睡眠障害などをもつ個々の学生（近年増加傾向にある）についての体調を含む状況報告を特に念入りに行い、保健室や相談員との連携も深めた。
	2 イベントの実施	「特別講座」および「作曲作品演奏会」を定例行事として行う。また機会があれば随時臨時イベントも開催する。	学生への啓発、学外や地域への貢献。	「作曲作品演奏会」として、7月7-8日にドイツからDuo Vertigeを招聘し室内楽ホールで実施した。 学生オーディション入選作品とアンサンブルのレパートリーによるプログラム構成。「特別講座」は、9月9日に提携校であるカリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）から作曲家のランド・スタイガー氏を招いて行った。（室内楽ホール）
	3 和声法の本学独自教材作成のための研究及び会議の実施	音楽学部基礎教育科目の改革推進費を得て、本学のカリキュラムにより適した必修科目である「和声」のオリジナル教材を作成する。またそのための研究と会議を専門家を招聘して行う。	西洋芸術音楽の根幹の一つである「和声法」について、必修である演奏系学生のニーズに適したオリジナルの教材を開発し、現在の四声による課題実施ではなく、和声の歴史にも配慮し演奏解釈への理論的バックボーンを養えるようにする。	常勤教員による会議と授業を担当する非常勤講師を交えた会議、さらに専門家である東京から近藤譲氏を招いての会議を計8回実施した。プロジェクトリーダーの山本クラスにおいて前年度一部先行して導入したことから見えた課題よりフィードバックを行い、今年度は1年生への全クラス導入に向けて準備を行った。 来年度から本採用する新しい教科書を完成させた。
	4 授業評価アンケートの実施	前期、後期それぞれ授業評価アンケートを以下の方法で実施。 前期後期の終わりに学生にアンケートを配布・回収し、結果を取りまとめる。結果を元に報告書を作成し、次年度報告書として学内ホームページにて開示する。	客観的に評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	改革を進めている「和声」についてアンケート調査を行った。教科書の移行期であるため多少の混乱が見られたが、授業内容についてはおおむね問題なく受け入れられていることを確認した。
音楽学	1 部会の実施	原則として、水曜日（昼休みまたは放課後）に部会を行なっている。	学生や授業に関して情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を変えたりすることができた。
	2 音楽学コース独自の授業アンケート実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほかに、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを行なっている。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	「西洋音楽史概説」や「音楽史特講」では、毎回、授業の最後にコメントカード（出席カードを兼ねる）を配布し、授業の感想や、質問などを自由に書かせた。履修者のコメントや質問はできる限り次の授業の冒頭で紹介し、フィードバックに務めた。授業の進め方や板書の仕方に関して寄せられたコメントは授業の改善に役立てた。
	3 音楽学総合ゼミの実施	この授業は「音楽学コロキアム」という名称の学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設された授業を母体として作られたもので、音楽学コースの学部生から大学院博士課程まで学生全員と教員全員が参加する授業である。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生による研究発表、ゲスト・スピーカーによる研究発表から成り、まさしくFDの理念に沿った授業である。	国内外の多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	ゲストスピーカーとしては、フルートの村田四郎名誉教授、油画の小林英樹名誉教授、本学西洋美術史の高梨光正准教授、デザインの森真弓准教授など、常連の教授陣に加え、近代日本音楽史の専門家である橋本久美子氏、外国人としては、作曲コースの客員であったアンドリアン・ペルトー氏をお招きした。本学卒業生にも多数登壇していただいた。たとえば、ピアノ科出身でジャズピアニストの風呂矢早織氏、音楽学出身でコレペティトゥアとしてドイツで活躍中の伊藤円氏、音楽学出身で研究者として活躍中の森本頼子氏、黄木千寿子氏、加藤希央氏など。非常に多彩で充実した内容で、その多くは一般にも公開し、大学の地域貢献にも役立った。
	5 特別講座の開講	特別講座を開催し、公開している。	学生および地域の方々に、すぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2019年度は2回実施した。フランスのソルボンヌ大学副学長で音楽学者のフレデリック・ビリエ氏と国際関係論の研究者である芝崎祐典氏である。一般にも公開し、大学の地域貢献にも役立った。
	6 複数教員による論文指導	音楽学を専門とする学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	修士論文が2本提出された。
	7 授業評価アンケートの実施	「西洋音楽史概説B」と「ポピュラー音楽概論」について実施した。	学生の意見を広く聞くため。	上記の独自の授業アンケートの結果とあわせて、授業の改善に役立てた。
	8 学生からの相談への対応、指導の実施	オフィスアワー時間以外にも、学生からの相談には柔軟に対応し、きめ細かい指導を行なっている。	学生が充実した大学生活を送ることができるようにするため。	学生が、心身の健康を保ち、勉学にさらにいそしむことに役立った。
	9 コース紀要の刊行	『愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要』を2006年から刊行し、その年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨を掲載している。	学生の学業の成果を広く知らせるため。	学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
声楽	1 専攻部会の開催	毎月２～３回、１回あたり2時間程度実施。参加者は専任教員６名。 主な議題は以下のとおり。 1. 各種委員会より依頼のあった懸案事項の検討 2. 専攻内での懸案事項の検討	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、声楽専攻としての方針を決定する。 ・個々の学生に関する情報を部会	・本年度における、大学および専攻運営上の最大の懸案は、専任教員２名の新規採用に関する事項であったが、次年度以降の指導体制を勘案し、これに沿った採用人事を無事に行うことができた。
	2 授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施。	学生から忌憚のない評価を得た上で、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	どの科目も概ね学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心が深かったことがうかがえる。自由記述にさらなる改善に向けての参考となる意見が見られた。
	3 舞台美術会議の実施（学内外のコラボレーション）	大学オペラ公演に向けて、大学院オペラ担当教員（演出家を含む）ならびに舞台美術担当教員（美術学部教員）、外部関係者による会議を実施。本年度は6回の会議を行った。	大学オペラ公演の具体的な舞台美術プランを決定する。	本年度の演目、モーツァルト作曲のオペラ《偽りの女庭師》は比較的マイナーな演目であったが、斬新な演出とそれに答えた舞台美術の完成度で魅力的な舞台となった。
	4 舞台衣装制作での協力（他大学とのコラボレーション）	学部４年の「オペラ研究」の授業において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、学芸大学側は舞台衣装を制作、本学では出来上がった衣装を着けての試演会の上演を行っている。	二大学間での協力により、双方の授業に役立てる。	双方が実践的な授業を行うために、非常に理想的で、きわめて貴重な機会であり、今後も継続がぜひ望まれる。先の授業アンケートでも「衣装が豪華だった」との学生の声があった。

音楽					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
声楽	5	特別講座の実施	年１回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レッスン等を行う。本年度は非常勤講師、升島唯博氏（テノール）による、レクチャー・コンサートを、2020年１月10日（金）に、室内楽ホールにおいて開催した。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聴き、学生たちの今後に役立てる。	升島氏のすばらしい演奏に触れ、またその非常にユニークな経歴を知って、学生たちは大いに関心を持った様子であった。みな良い刺激を受けたものと思われる。
ピアノ	1	特別講座開講	２月１１日（火） バロックダンスの研究家、実演家である武田牧子氏を招へいし、バロックからロマン派までの舞曲とそのステップ概説、実践を伴った講座を開催した。	西洋音楽と密接にかかわっている舞踏の知識修得と実践体験を通して、学生がより多面的かつ高度な演奏を目指すための一助とする。	限られた時間ながら各舞曲への核心をついた概説を頂き、多くのステップについて参加者全員が活き活きと実践経験に取り組むことができた。舞踏及び、音楽における舞踏的要素への理解・関心が高められた。
	2	公開授業の実施	６月２６日（水） ショパン国際コンクール入賞者であるイリーナ・チュコフスカヤ客員教授によるピアノリサイタル（オール・ショパンプログラム）を開催。１１月２０日（水） 同女史による公開レッスンを行った。	一流の演奏家による演奏や実技指導を、日ごろから教育研究に使用しているホールで体験する。	新たに着任したチュコフスカヤ客員教授の意欲的な指導や、和声感に満ちた演奏は学生のみならず教員にとっても大きな刺激をもたらした。
	3	実技試験の改善	前年度に熟慮検討を重ねてきた試験課題の改善を実行に移した。３年前期試験を２会場で行い、バッハ平均律の課題を拡充し、後期試験とは別に機会を設けた。	試験時間の増加による評価の改善、及び意欲向上（３年前期試験）。音楽家にとって血となり肉となる作品群の継続的な学習促進（バッハ）。	３年前期試験の２会場化により、従来の２倍の演奏時間を確保でき、学生たちの熱心な取り組みを確実に把握できるようになった。バッハ課題においても、継続的な学習の様子がみられた。
	4	コンサートへの出演	宗次ホールでのチャリティーコンサートにピアノコースからは4名の教員（北住教授・鈴木准教授・中尾准教授・武内准教授）が出演し、独奏および、他コース教員との共演を行なった。この他、教員それぞれが主に以下のような研究活動を行った。	研究・教育能力の向上。	音楽表現活動を継続することは各教員の研究を深めるとともに、学生への実技指導に直接還元され、教育の質の向上につながっている。
弦楽器		弦楽器コースでは、実技及び室内楽試験、複数の教員で指導を行うアンサンブル授業、公開講座や特別授業、半期毎の授業アンケート、弦部会等、全てをFD活動としてとらえている。			
	1	実技試験 室内楽試験	演奏による試験は、実技（2年生以上公開）及び室内楽（全学年公開）で前・後期に各1回ずつ行っており、弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師が共に学生の演奏を聴き、採点を行う。	演奏を聴けば、その学生が担当教員からどのような指導を受けているかがある程度判り、又、他教員による採点や試験後の講評によって、異なる視点からの意見や指導法、解釈等を知る事にもなり、学生自身は勿論、担当教員にとっても大変役立っている。	学生が、入学時より卒業するまでの間、どの様に成長していくかをコース内全教員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当外であっても必要に応じて指導を行っている。全教員が全ての学生名とその演奏を把握し、助言を行えているのは、規模の大きすぎない本学ならではの利点であり、強味であると言える。
	2	複数の教員で指導する授業科目	弦楽器コース（大学院弦楽器領域）では、「弦楽合奏」及び「室内楽」に於いて複数の教員が指導を行っている。 「弦楽合奏」では、室内楽を大型にしたような緻密且つ音楽的なアンサンブルを目指し、指揮者の他、複数の教員がアイデアを出し、助言を行いながら分奏及び合奏の指導を行っている。R.元年度は、外国人客員教授F.アゴスティーニ氏と渡邉玲雄准教授がソリストとして参加、学生と共演する形での作品研究も行い、その成果を定期演奏会で披露した。 学部「室内楽」では複数の教員が同時に一つの組を指導する事は基本的にないが、学部1年次に於いては指導するグループを教員二名で毎週入れ替えながら授業を行う形を取っており、まだ室内楽経験の浅い新入生に対し、広い視野に立った指導を行うよう心掛けている。 一方、大学院「室内楽１」では、2～3名の教員が毎週入れ替わりながら一つのグループに対して多角的且つ専門的な指導を行える体制を取っており、更に、大学院「室内楽２」では、学生が全領域の中から教員を指名、指導を受けられるというカリキュラムになっている。	複数の教員で授業を行う科目では、教員同士が互いの指導方法等を知る事も出来、自身の授業法改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、学年が進むにつれ、学生達のアンサンブル能力が明らかに向上していく様子がはっきりと見てとれ、現在の指導方法が大変効果的である事が確認できた。
	3	公開講座 特別講座	R.元年度は、外国人客員教授としてF.アゴスティーニ氏（Vn.）を迎え、更に短期客員教授として10～12月にK.カンギーサ氏（Vc.）、アーティストインレジデンス事業として11月にM.ブッフホルツ氏（Va.）を招聘する等、非常に充実した一年となった。11月20日には「ケルンの風Ⅵ（室内楽演奏会／電気文化会館）」として、3名の招聘教授と専任教員との共演で演奏会を行い、11月29日にはカンギーサ・ブッフホルツ両氏をソリストにオーケストラ定期演奏会を行った。	通常、指導を受けている教員以外の演奏家によるレッスン等を受講・聴講することで、別の視点から多くの事を学ぶことが出来る。	左記の他にも、ルドヴィート・カンタ非常勤講師によるチェロ公開レッスン等、今年度も多くの公開講座や特別授業を行った。内外で活躍する演奏家の演奏や指導法を聴講し、質疑応答の場を設ける等、彼らの音楽に対する姿勢や知識・経験を知る事は、学生のみならず教員にとっても非常に勉強になった。これらの講座・授業は全て録画し記録として残している。
	4	専攻会議	教員間の情報共有や授業計画・改善を目的に、前・後期合わせ13回の部会を行った。この他、メールでも頻繁に連絡を取り合い、報告事項の共有や授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	教員全員が、全学生の勉学面と生活面の両方で現状を把握できるようにする。	全学生の受講状況や生活面に関する情報等を出来る限り共有し、担当以外の学生の相談にも適宜応じる等、全教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら指導に当たっている。
	5	授業評価アンケートの実施	前期／弦楽合奏、後期／室内楽授業についてのアンケートを実施、報告書を作成した。	弦楽器コースが特に力を入れているアンサンブル教育が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	受講学生全員が「この授業は専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価するとよい授業だと思うか」等の問いに“強くそう思う”或いは“ややそう思う”と回答し、授業を高く評価しているという結果が見られた。これからも引き続き教員間の連携を密にして、より充実した授業を目指していく。
	6	愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団その他	2008年に弦専任教員5人で「愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。一昨年にブラームス室内楽全曲演奏プロジェクトが終了後も、前述したように客員教授を交えての演奏会等、大変意欲的に演奏活動を行っており、いずれも大変好評であった。 その他、弦楽器コースでは教員と学生が共演する機会も設けており、5月に毎年行っているバッハ公演では、弦専攻の専任教員全員が演奏に参加、学生と共に音楽を作り上げている。	学生に、教員が音楽に取り組む姿勢を示す。綿密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を身近で見せる事により、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に示すことが出来る。更に、学生との共演も大変有効な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。	これらの活動により、教員と学生間は勿論、教員同士も互いに良い刺激を受け音楽界の情報交換も出来る等、広義的に授業での指導力向上に繋がっていると確信している。
管打楽器	1	実技試験	１年生は後期のみ、２～３年生は前期・後期両方、４年生は学内演奏と卒業試験で演奏をした。専任教員は全ての専攻を、非常勤講師は担当する専攻を中心に可能な限り審査した。試験は公開で行った。	レッスンの進度や日頃の取り組みの成果を発表し、担当教員以外にも評価を受ける機会を設けるため。	担当教員だけでなく専門以外の教員や学生同士で意見交換をする事によって、学習の進度や方向性の自発的な修正に役立った。
	2	授業評価アンケートの実施	前期と後期に授業評価アンケートを指示された方法で実施した。	学生の授業への意見を参考により良い授業運営を行っていくため。	参考になり、成果が少しずつ上がってきた。
	3	室内楽授業・発表会	毎週木曜日の１～２限に室内楽の授業を行っている。専任教員以外にも非常勤講師を招き、緊張感のある授業を展開している。	アンサンブル能力の向上。授業や準備のリハーサルのスケジューリングや会場準備などを通じて自主性を養うため。	定期的に発表会を行うと共に、半期に2回程度大編成の曲を初見で行ったが、初見力やアンサンブル力の向上が見られた。
	4	専攻会議	定例専攻会議を毎月、臨時専攻会議を適時行った。	各種委員会の進捗状況の共有、学生の情報の共有、授業の打ち合わせなどのため。	健康に関する事や、単位取得状況、出席授業等の共有が強まった。

音楽				
専攻コース	項目	概要	目的	結果
管打楽器	5 合奏系授業	オーケストラと吹奏楽の授業を毎週行った。オーケストラでは高関健 客員教授の指揮の下、R・シュトラウスの「ドン・キホーテ」を愛知県芸術文化センターにて演奏した。吹奏楽では矢澤定明 非常勤講師の指揮の下、第20回定期公演を長久手市文化の家にて行った。	優れた指揮者、音楽家と共演することでしか得られない音楽体験を学生達に与えるため。	両公演共に多くの来場者に恵まれ、充実した公演となった。
	6 公開講座	トロンボーンのソリストのP・シュナイダー氏、フルートのM・コフラー氏、小山裕幾氏、P・アランコ氏、等が来学し、マスタークラスを行った。	世界トップの演奏家から直接指導を受け、その技術を間近に感じ、学生の演奏技術を更に向上させるため。	世界の最先端の演奏技術に触れ、更に高い目標を持って日々の研鑽に励む動機付けになった。

第２章　授業評価アンケート

平成３１（令和元）年度　授業評価アンケート

１．はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（ＦＤ）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成２１年度から、ＦＤ専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の２種類のアンケートで実施しています。

この２種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

２．アンケートの実施

前期と後期の年２回実施をしました。

前期は、令和元年７月８日（月）から８月２日（金）の４週間。後期は、令和２年１月６日（月）から２月１４日（金）の６週間。この期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT のアンケート機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

実施対象の授業ですが、集中講義を除く点は昨年度と同様ですが、履修登録者５名以下を除くすべての学部授業（ただし、音楽学部の個人レッスンは除く。また、大学院は、担当教員の希望により実施）から変更し、ＦＤ委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択しました。これは、各専攻でアンケートを必要とする授業にしぼることを目的とするだけではなく、アンケート実施が困難な授業を事前に把握することが可能となりました。実施が困難な授業とは、個人指導の形態をとっている授業やクラス分けにより少人数で行っている授業などがあります。

このように実施方法は、ＦＤ専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

３．アンケートの報告

アンケートは実施後、学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。集計は、回答者全員分とアンケートの設問で集計結果をもとに、ＦＤ報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。

授業評価アンケート　講義

・このアンケートは、授業改善を目的としています。そのため、率直な回答をお願いします。

・アンケートの集計結果だけを担当教員に伝えます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与えることは一切ありません。

・アンケートの設問は裏面にもあります。

授業科目名

授業アンケートコード

この授業について、設問1、5以外は、以下の該当する数字を1つ選んでください。

5:強くそう思う
4:ややそう思う
3:どちらともいえない
2:あまりそう思わない
1:まったくそう思わない

注意事項
・用紙は曲げたり汚したりしないでください。
・鉛筆、シャープペンシルで記入してください。

・記入例

良い例

悪い例

●受講したあなたについて

		5	4	3	2	1
1.あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 (5)100%　(4)90%くらい　(3)80%くらい　(2)70%くらい　(1)60%以下	1					
2.あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。	2					
3.この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。	3					

●授業について

		5	4	3	2	1
4.「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。	4					
5.授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。 (5)ほぼ時間どおり　(4)延長することが多い　(3)開始が遅いことが多い (2)早く終わることが多い　(1)よくわからない	5					
6.教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。	6					
7.板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。	7					
8.教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。	8					
9.教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。	9					
10.教員とコミュニケーションはとれていましたか。	10					
11.教室・設備については適切でしたか。	11					
12.授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。	12					

13.自由記述:この授業で特によかった点があれば書いてください。

14.自由記述:この授業で要望など改善してほしい点があれば書いてください。

15.自由記述:授業に関して施設設備などに対する要望などがあれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。
このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

授業評価アンケート　実習

・このアンケートは、授業改善を目的としています。そのため、率直な回答をお願いします。

・アンケートの集計結果だけを担当教員に伝えます。したがって、誰がどのように回答したかはわかりません。また、回答者個人の成績評価などに影響を与えることは一切ありません。

・アンケートの設問は裏面にもあります。

授業科目名

授業アンケートコード

この授業について、設問1以外は、以下の該当する数字を1つ選んでください。

5:強くそう思う
4:ややそう思う
3:どちらともいえない
2:あまりそう思わない
1:まったくそう思わない

注意事項
・用紙は曲げたり汚したりしないでください。
・鉛筆、シャープペンシルで記入してください。

・記入例

良い例

悪い例

●受講したあなたについて

		5	4	3	2	1
1.あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 (5)100%　(4)90%くらい　(3)80%くらい　(2)70%くらい　(1)60%以下	1					
2.あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。	2					
3.この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。	3					

●授業について

		5	4	3	2	1
4.「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。	4					
5.授業時間は十分だと感じましたか。	5					
6.教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。	6					
7.教員とコミュニケーションはとれていましたか。	7					
8.あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。	8					
9.教室・設備については適切でしたか。	9					
10.この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。	10					
11.授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。	11					

12.自由記述:この授業で特によかった点があれば書いてください。

13.自由記述:この授業で要望など改善してほしい点があれば書いてください。

14.自由記述:授業に関して施設設備などに対する要望などがあれば書いてください。

ご協力ありがとうございました。
このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

平成31（令和元）年度　授業評価アンケート実施授業一覧（音楽）

	科目名称	教員氏名	講義/実技
作曲	和声ＩＡ	遠藤　秀安	実習
	和声ＩＡ	山本　裕之	実習
	和声ＩＡ	小櫻　秀樹	実習
	和声ＩＡ	成本　理香	実習
	和声ＩＡ	鈴木　宏司	実習
音楽学	音楽民族学概論	エドガー・ポープ	講義
	音楽学基礎演習	安原　雅之	講義
	音楽史特講a	井上　さつき	講義
	音楽療法	村瀬　香	講義
	西洋音楽史概説A	深堀　彩香	講義
	音楽学概説	安原　雅之	講義
	楽書講読（英）ＩＡ	エドガー・ポープ	講義
声楽	音楽芸術言語（独語）ＩＡ	マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	講義
	音楽芸術言語（伊語）ＩＡ	水野　留規、ロムアルド・バローネ	講義
	オペラ重唱A	初鹿野　剛	実習
	重唱	石山　英明、辻　博之	実習
ピアノ	ピアノ合奏A	掛谷　勇三、鈴木　謙一郎、武内　俊之	実習
	伴奏法・器楽曲A	武内　俊之	実習
	伴奏法・歌曲A	米川　幸余	実習
弦	弦楽合奏ＩＡ～ⅣA	弦楽器コース教員	実習
管打	管楽合奏ＩＡ～ⅣA	矢澤　定明	実習

平成31（令和元）年度後期授業評価アンケート実施授業一覧（音楽）

	科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実習
作曲	和声ＩＢ		成本　理香	実習
	和声ＩＢ		遠藤　秀安	実習
	和声ＩＢ		山本　裕之	実習
	和声ＩＢ		鈴木　宏司	実習
	和声ＩＢ		小櫻　秀樹	実習
	和声ⅡＢ		久留　智之	実習
	和声ⅡＢ		遠藤　秀安	実習
	和声ⅡＢ		山本　裕之	実習
	和声ⅡＢ		鈴木　宏司	実習
	和声ⅡＢ		小櫻　秀樹	実習
音楽学	西洋音楽史概説B		安原　雅之	講義
	楽書講読（英）ＩＢ		エドガー・ポープ	講義
	音楽史特講b		井上　さつき	講義
	ポピュラー音楽概論		東谷　護	講義
声楽	オペラ基礎B		たかべ　しげこ	実習
	合唱ＩＢ～ⅢB	（女）	長谷　順二	実習
	合唱ＩＢ～ⅢB、重唱B	（男）	佐藤　正浩	実習
	合唱B		永　ひろこ	実習
	音楽芸術言語（伊語）ＩＢ		ロムアルド・バローネ	講義
	音楽芸術言語（独語）ＩＢ		マーティン・ヴィルヘルム・ニアス	講義
	オペラ研究B		森川　栄子	実習
	オペラ総合演習２		佐藤　正浩	実習
ピアノ	ピアノ合奏B		掛谷　勇三	実習
	伴奏法・歌曲B		米川　幸余	実習
	伴奏法・器楽曲B		北住　淳	実習
弦	室内楽（弦）ＩＢ、ⅡＢ、ⅢA、ⅢB、ⅣA、ⅣB		白石　禮子	実習
管打	オーケストラＩＢ～ⅣB、ⅢA、オーケストラB	（管打楽器）	橋本　岳人	実習
	管楽合奏ＩＢ～ⅣB、ⅢA、管楽合奏B		矢澤　定明	実習
	管打学基礎ＩＢ		井上　圭	実習
	管打学基礎ⅡＢ		杉浦　邦弘	実習
	合奏B		丹下　聡子	実習
	室内楽（管打）ＩＢ～ⅣB、ⅢA		深町　浩司	実習

平成31（令和元）年度　授業評価アンケート実施授業一覧（美術）

	科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
日本画	日本画実技ＩＡ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅡＡ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅢＡ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅣＡ		日本画専攻教員	実習
油画	油画実技Ⅰ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅱ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅲ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅳ		油画専攻教員	実習
彫刻	彫刻実技Ⅰ	（塑像Ⅰ）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅰ	（金属）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅱ	（塑像Ⅱ）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅱ	（石彫）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅲ	（彫刻ゼミⅠ）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅳ	（創作Ⅰ）	彫刻専攻教員	実習
芸術学	西洋美術史概説A		高梨　光正	講義
	現代アート概説A		小西　信之	講義
	芸術学基礎実技ＩＡ		小西　信之	実習
	芸術学基礎実技ⅡＡ		小西　信之	実習
	西洋美術史特講Ⅰ		高梨　光正	講義
	日本美術史特講Ⅱ		藤原　幹大	講義
	東洋美術史特講Ⅰ		藤田　伸也	講義
	現代アート論特講Ⅰ		小西　信之	講義
デザイン	デザイン・工芸論A		本田　敬	講義
	デザイン特講A		夏目　知道	講義
	写真ゼミ	（隔週）	非常勤講師、森　真弓（石井　晴雄）	実習
	グラフィックゼミ		佐藤　直樹	実習
	デザイン研究論A		佐藤　直樹	講義
陶磁	陶磁史ＩＡ		佐藤　文子	講義
	陶磁論A		佐藤　文子	講義
関連	デザイン史A	（隔週）	森　仁史	講義
	美術解剖学		馬場　悠男	講義

平成31（令和元）年度　後期授業評価アンケート実施授業一覧（美術）

専攻	科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
日本画	日本画実技ＩＢ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅡＢ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅢＢ		日本画専攻教員	実習
	日本画実技ⅣＢ（卒業制作を含む。）		日本画専攻教員	実習
油画	油画実技Ⅰ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅱ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅲ		油画専攻教員	実習
	油画実技Ⅳ（卒業制作を含む。）		油画専攻教員	実習
	油画特別演習Ⅰ		油画専攻教員	実習
	油画特別演習Ⅱ		油画専攻教員	実習
	油画特別演習Ⅲ		油画専攻教員	実習
	油画特別演習Ⅳ		油画専攻教員	実習
彫刻	彫刻実技Ⅰ	（木彫）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅱ	（造形）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅰ	（樹脂）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅱ	（テラコッタ）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅲ	（３年ゼミ）	彫刻専攻教員	実習
	彫刻実技Ⅳ（卒業制作を含む。）	（卒業制作）	彫刻専攻教員	実習
	材料研究	（乾漆）	彫刻専攻教員	実習
芸術学	日本美術史概説B		本田　光子	講義
	西洋美術史概説B		高梨　光正	講義
	現代アート概説B		小西　信之	講義
	芸術学基礎実技ＩＢ		小西　信之	実習
	芸術学基礎実技ⅡＢ		小西　信之	実習
デザイン	デザイン・工芸論B		本田　敬	講義
	デザイン特講B		夏目　知道	講義
	デザイン文化史特講		関口　敦仁	講義
	Webデザイン基礎	（隔週）	森　真弓	実習
	立体空間ゼミ	（隔週）	水津　功・本田　敬	実習
陶磁	陶磁実技Ⅰ		陶磁専攻教員	実習
	陶磁実技Ⅱ		陶磁専攻教員	実習
	陶磁実技Ⅲ	（陶芸）	陶磁専攻教員	実習
	陶磁実技Ⅲ	（セラミックデザイン）	陶磁専攻教員	実習
	陶磁実技Ⅳ（卒業制作を含む。）	（陶芸）	陶磁専攻教員	実習
	陶磁実技Ⅳ（卒業制作を含む。）	（セラミックデザイン）	陶磁専攻教員	実習
	陶磁特別実技Ⅰ		陶磁専攻教員	講義
	陶磁特別実技Ⅱ		陶磁専攻教員	講義
	陶磁原料学Ⅲ		陶磁専攻教員	講義
	陶磁史ＩＢ		陶磁専攻教員	講義
	陶磁論B		陶磁専攻教員	講義

平成31（令和元）年度　後期授業評価アンケート実施授業一覧（教養）

科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
美学B		中　敬夫	講義
外国文学B		高田　映介	講義
西洋史B		小島　崇	講義
日本国憲法	（音楽）	築山　欣央	講義
心理学B		三宮　敦生	講義
人類学B		竹野　富之	講義
数学B		加納　成男	講義
自然科学史B		吉山　青翔	講義
自由研究ゼミナールⅠ		石垣　享	講義
自由研究ゼミナールⅠ		水野　留規	講義
自由研究ゼミナールⅡ		石垣　享	講義
異文化コミュニケーションB		井上　彩	講義
社会学ⅠB		中根　多恵	講義
社会学ⅡB		中根　多恵	講義
外国文化史		水野　留規	講義
日本の古典文芸		二瓶　浩明	講義
日本の近現代演劇		二瓶　浩明	講義
コンピューター基礎Ⅱb		清道　正嗣	講義
コンピューター基礎Ⅱb		鈴木　剛	講義
基礎生物学B		清道　正嗣	講義
芸術と諸科学	（隔週）	大塚　直	講義
コンピューター基礎Ⅰ		渡邊　裕司	講義
コンピューター基礎Ⅰ		渡邊　裕司	講義
コンピューター基礎Ⅱc		清道　正嗣	講義
身体運動演習ⅠA/ⅠB		幸田　律	実習
身体運動演習ⅠA/ⅠB/ⅡB		鶴原　香代子	実習
身体運動演習ⅠA/ⅠB/ⅡA/ⅡB		小野　昌子	実習
スポーツ・健康科学B		石垣　享	実習
基本体育B（火・3）		石垣　享	実習
基本体育B（火・4）		石垣　享	実習
基本体育B（火・5）		石垣　享	実習
英語初級ⅠB		ナイレー・アン・キーナン	講義
英語初級ⅠB		ナイレー・アン・キーナン	講義
英語初級ⅡB		トーマス・オーエン・コックス	講義
英語初級ⅡB		井上　彩	講義
英語初級ⅡB		中根　多恵	講義
英語中級ⅠB		井上　彩	講義
英語中級ⅠB		井上　彩	講義
英語中級ⅠB		中根　多恵	講義
英語中級ⅡB		トーマス・オーエン・コックス	講義

平成31（令和元）年度　後期授業評価アンケート実施授業一覧（教養）

科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
英語上級ＩＢ		松永　隆	講義
ドイツ語初級ＩＢ		大塚　直	講義
ドイツ語初級ＩＢ		橋本　亜季	講義
ドイツ語初級ⅡＢ		大塚　直	講義
ドイツ語初級ⅡＢ		山本　弘之	講義
ドイツ語中級ＩＢ		大塚　直	講義
ドイツ語中級ⅡＢ		シュトラーラ　ヤン　ゲリット	講義
フランス語初級ＩＢ		土井　みどり	講義
フランス語初級ＩＢ		土井　みどり	講義
フランス語初級ⅡＢ		フロリアン・エルゴット	講義
フランス語初級ⅡＢ		フロリアン・エルゴット	講義
イタリア語初級ＩＢ		ロムアルド・バローネ	講義
イタリア語初級ⅡＢ		パペッテ・マシィミリアーノ	講義
イタリア語初級ⅡＢ		ロムアルド・バローネ	講義
教職入門	（音楽）	三品　陽平	講義
教職入門	（美術+ピアノ）	三品　陽平	講義
教育心理学	（美術）	三宮　敦生	講義
教育心理学	（音楽）	三宮　敦生	講義
美術科教育法A		藤江　充	講義
音楽科教育法A		柴田　篤志	講義
道徳教育指導論	（音楽）	三品　陽平	講義
教育方法		宮地　祐司	講義
音楽科教育法C		柴田　篤志	講義
生徒・進路指導論	（美術）	内藤　春彦	講義
特別支援教育論		中村　扶佐子	講義
生涯学習概論		松野　修	講義
博物館経営論		木本　文平	講義
博物館資料論		宮永　郁恵	講義

平成31（令和元）年度後期授業評価アンケート実施授業一覧（教養）

科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
美学A		中　敬夫	講義
外国文学A		高田　映介	講義
西洋史A		小島　崇	講義
日本国憲法	（美術・ピアノ）	築山　欣央	講義
心理学A		三宮　敦生	講義
人類学A		竹野　富之	講義
数学A		加納　成男	講義
自然科学史A		吉山　青翔	講義
異文化コミュニケーションA		井上　彩	講義
社会学ＩＡ		中根　多惠	講義
社会学ⅡＡ		中根　多惠	講義
西洋の古典文芸		水野　留規	講義
日本文学		二瓶　浩明	講義
日本演劇論		二瓶　浩明	講義
コンピューター基礎Ⅱａ		清道　正嗣	講義
コンピューター基礎Ⅱａ		鈴木　剛	講義
コンピューター基礎Ⅱａ		清道　正嗣	講義
コンピューター基礎Ⅱｂ		鈴木　剛	講義
西洋演劇論		大塚　直	講義
コンピューター基礎Ⅲ		清道　正嗣	講義
基礎生物学A		清道　正嗣	講義
博物館概論		木本　文平	講義
博物館資料保存論		長屋　菜津子	講義
博物館情報・メディア論		鯨井　秀伸	講義
博物館教育論		藤江　充	講義
考古学		長田　友也	講義
身体運動演習ＩＡ/ＩＢ/ⅡＡ		幸田　律	実習
身体運動演習ＩＡ/ＩＢ/ⅡＡ/ⅡＢ		鶴原　香代子	実習
身体運動演習ＩＡ/ＩＢ/ⅡＡ		山本　祐実	実習
身体運動演習ＩＡ/ＩＢ/ⅡＢ		小野　昌子	実習
スポーツ・健康科学A		石垣　享	実習
基本体育A（火3）		石垣　享	実習
基本体育A（火4）		石垣　享	実習
基本体育A（火5）		石垣　享	実習
英語初級ＩＡ		ナイレー・アン・キーナン	講義
英語初級ＩＡ		ナイレー・アン・キーナン	講義
英語初級ⅡＡ		トーマス・オーエン・コックス	講義
英語初級ⅡＡ		井上　彩	講義
英語初級ⅡＡ		中根　多惠	講義
英語中級ＩＡ		井上　彩	講義

平成31（令和元）年度後期授業評価アンケート実施授業一覧（教養）

科目名称	授業名称	教員氏名	講義/実技
英語中級ＩＡ		井上　彩	講義
英語中級ＩＡ		中根　多惠	講義
英語中級ⅡＡ		トーマス・オーエン・コックス	講義
英語中級ⅡＡ		トーマス・オーエン・コックス	講義
英語上級ＩＡ		松永　隆	講義
英語上級ⅡＡ		トーマス・オーエン・コックス	講義
ドイツ語初級ＩＡ		大塚　直	講義
ドイツ語初級ＩＡ		橋本　亜季	講義
ドイツ語初級ⅡＡ		大塚　直	講義
ドイツ語初級ⅡＡ		山本　弘之	講義
ドイツ語中級ＩＡ		大塚　直	講義
ドイツ語中級ⅡＡ		シュトラーラ　ヤン　ゲリット	講義
フランス語初級ＩＡ		土井　みどり	講義
フランス語初級ＩＡ		土井　みどり	講義
フランス語初級ⅡＡ		フロリアン・エルゴット	講義
フランス語初級ⅡＡ		フロリアン・エルゴット	講義
イタリア語初級ＩＡ		ロムアルド・バローネ	講義
イタリア語初級ⅡＡ		ロムアルド・バローネ	講義
イタリア語中級ⅡＡ		パペッテ・マシィミリアーノ	講義
美術科教育法Ｂ		礒部　洋司	講義
音楽科教育法Ｂ		柴田　篤志	講義
道徳教育指導論	（美術）	三品　陽平	講義
生徒・進路指導論	（音楽）	内藤　春彦	講義
教育相談		日下　美輝子	講義
教育原理	（美術）	三品　陽平	講義
教育原理	（音楽）	三品　陽平	講義